競技上の注意事項

1　競技要領と競技方法

・　本大会では，クラス S1～S14 は IPC 水泳競技規則による。国際クラスに該当しない視覚障がいと肢体不自由の選手のクラスは，クラス S21 として実施し，IPC 水泳競技規則を準用する。S15 は FINA（国際水泳連盟）水泳競技規則による。

・　IPC 水泳競技規則は，IPC－SW ホームページに掲載されている。

http://www.paralympic.org/Swimming/RulesandRegulations/Rules

・　内容の主なものについては日本身体障がい者水泳連盟ホームページ掲載　「2014年度日本身体障がい者水泳連盟（JPSF）競技運営指針　競泳規則」の項目を参考にされたい。 http://paraswim.jp/

・　本大会は 2 日間開催でそれぞれの日で予選・決勝を行う。全ての選手は，午前中の予選を泳がなければ，午後のクラス別決勝レースに出場できない。

・　決勝レースには，予選において上位 8 位までの選手が出場できる。ただし，予選出場者が 8 名以下の種目の競技は，予選において失格等がなければ，全選手が決勝レースに出場できる。すべての 50m のオープン競技は，予選のみとし，決勝レースは行わない。

・　すべての予選レースを対象に，世界新記録との比較でトップの記録を出した選手に記念品を贈る。

・　オープン競技にはメダルは授与されず，記録証のみ授与する。

2　スタートリスト

・　予選のスタートリストはプログラムに記載する。決勝のスタートリストは予選終了後，速やかに更衣室前及び総合受付付近に掲示する。

・　予選は，種目ごとにエントリータイム順に原則として女子・男子の順に行う。

・　決勝は，種目ごとに原則として女子・男子，クラス順に行う。

3　招集

・　招集は，競技予定時刻の 20 分前に行う。尚，棄権の場合は，招集時間の 1 時間前に，予選実施種目の決勝を棄権する場合は，予選終了後 1 時間以内に，それぞれ招集員に届けること。

4　デッキアクセス等（介助申請）

・　選手以外の介助者が競技エリア内に入場するためには，種目競技時間の 1 時間前までに介助申請をし，認められなければならない。ただし，スタートリストにルールエクセプションコード「A」，「T」の記載がある選手の介助申請は不要とする。また，競技役員に介助を依頼する場合にも，その旨の申請が必要である。（申請用紙は総合受付で配布，招集所へ提出）

申請用紙 は日本身体障がい者水泳連盟ホームページからもダウンロードできる。

http://paraswim.jp/

5 スタート

・ スタートは 1 回のみとし，やり直しは行わない。他の選手がフォルススタートをおこなった場合でも，出発合図員の号砲にてスタートすること。

・ 水中スタートをする選手は，審判長の笛の合図で水中に入り，競技規則に沿ったスタート姿勢をとること。なお，プール横から入水する選手は，選手紹介が終わり次第，プール横に移動すること。

（なお，予選では選手紹介は行わないので，レース組数の紹介が終われば，速やかに移動すること。）

・ 聴覚障がいの選手は，審判長の笛の合図でスタート台に上り，足の指を台の前縁にかけた後，直ちに出発合図員を見ること。

6 ゴール後は……

・ 全選手が泳ぎ終わるまで自分のコースで待機するか，スタート台横から退水すること。全選手が泳ぎ終わった後，1～4コースの選手は1コース側のプールサイドから，5～8コースの選手は8コース側のプールサイドから退水すること。

7 視覚障がいの選手は……

・ クラス 11 でルールエクセプションBの選手は，透けて見えない黒のゴーグルを着用すること。競技終了後，プールサイドで確認する。

・ クラス 11 の選手は，ターンとゴールの際，タッパーが競技者にプールの端に近づいたことを知らせなければならない。また，クラス 12･13 の選手には知らせることができる。但し，競技者がプールの端に近づいたことを音声によって知らせることは許されない。競技役員は指示を行なわない。指示用の「合図棒」ならびに「タッパー」は各自で用意すること。

8 手話通訳者

・ 手話通訳者は，招集と表彰場所に配置する。

9 表 彰

・ 表彰は，決勝の各レース終了後，各クラス 3 位入賞者までスタート台側で行う。ただし，参加申込者が 2 名までの場合は 1 位のみ，3 名の場合は 2 位までメダルを授与する。

・ 記録証は完泳した全参加選手に授与する。記録証は 2 階総合受付で渡すので，参加当日の全競技終了後 30 分後までに各自取りに来ること。

10 記録速報の掲示

・ 競技記録の速報は，2 階総合受付に掲示する。

11 練習について

・ メインプール（50mプール･8 コース）は，19 日 13 時～18 時（コース指定，水深 2．0m），20 日･21 日は，9 時から 9 時 40 分と昼食時間に使用出来る。水深は 2．0mである。

・　練習用プール（飛込みプール 25m）は，開会式及び閉会式を除き 20 日・21 日は，常時利用できる。

12 ドーピング

・　本大会ではドーピング検査が実施される。
・　ドーピング検査の結果陽性反応となり違反が認められた場合は，記録は認められず，メダルは返却しなければならない。

13 水着について

・　本大会の水着に関する規程は，原則としてすべて FINA 及びIPCの競技規則による。
（水着のチェックは招集所で行う。FINA マークのついていない水着を例外的に着用する場合は，事前に大会本部の総務に届け出て許可を受けなければならない。）

14 クラス分け

・　クラス分けは競技中の観察も含まれる。クラス分け委員の指示に従うこと。
・　適切な医学的情報の提出がない場合，あるいは持てる能力を発揮しない場合などで「クラスなし（非協力的，意図的な虚偽申告等）」と認定された場合，記録は認められず，メダルは返却しなければならない。また，今大会以降の競技会（ジャパンパラ，日本選手権大会）には出場できない。
・　競技観察の結果，出場したクラスから変更になった場合，確定したクラスでの記録となる。
・　クラス分けについては日本身体障がい者水泳連盟ホームページ掲載 J-FCS クラス分けマニュアル 2014 版も参考にされたい。 http://paraswimjp/

15 傷害のある選手

・　傷口が開いていたり，テーピングや絆創膏を必要とする傷害のある状態で出場を希望する選手は，事前に招集所に申し出たうえで，JPSF メディカルスタッフの許可を得なければならない。許可を得ないで出場した場合は失格となる。

16 国際登録選手と記録の公認

・　IPCのライセンスプログラムに基づいて，国際選手登録をした選手については，国際記録としてIPC-SWへ報告を行う。ただし，国際ランキングなどに反映されるのは R と C のステータス選手の記録のみである。

17 その他

・　予選と決勝の間に昼休みをとる。
・　会場における事故等については，応急処置のみとし，その他の責任は負わない。
・　室温は 30 度位，水温 28 度位とする。